

「名古屋芸大 中河・小西両教授を支援する会」

# 結成一周年記念集会

場所：北名古屋市東公民館2階大集会室

(愛知県北名古屋市熊之庄屋形3242番地4) TEL;0568-22-4560

<http://www.city.kitanagoya.lg.jp/shougai/0600027.php>

日時：2018年12月21日(金)

18:00開始

20:30終了予定



懇親会

インド・ネパール料理 アヴィヤン

(北名古屋市鹿田東蒲屋敷576-3 0568-25-0177)

西村正幸先生講演  
(名古屋芸術大学元美術学部長)

テーマ

マザーランド  
MOTHERLAND

一周年記念集会 式次第予定

◎新村洋史 支援する会代表あいさつ

◎名古屋芸術大学事件弁護団

紹介と事件経緯報告

◎西村正幸先生講演

◎東海私大教連関係者連帯あいさつ

◎名芸大関係者の決意表明

及びOB・OGのあいさつ

◎中河・小西両教授の決意表明

◎応援歌 名古屋男声合唱団有志

※集会終了後に懇親会を開催します。  
ご参加下さい。

主催：名古屋芸大 中河・小西両教授を支援する会

<http://www.roren.net/shidai/wiki.cgi/kaikoshien>

【問い合わせ】メールアドレス；[shidai@roren.net](mailto:shidai@roren.net)

電話；052-883-6969 FAX；052-883-6968

東海地区私立大学教職員組合連合内

## 学生や卒業生からの声が 支援する会に寄せられて います

名古屋芸大では、理事会が少数による強権的な大学運営を行うようになりました。両教授の不当懲戒解雇はその一端です。しかし、理事会によるそうした大学運営はうまくいっておらず、被害は学生に及んでいます。学生の中に不満が蓄積していると思われます。そうした中、下記の通り、在学生と卒業生から支援する会に寄稿がありました。

私は、名古屋芸術大学の学生です。そして、中河教授、小西教授両名に名古屋芸大に戻ってきてもらいたい者の一人です。

お二人が昨年度、忽然と、同時に姿を消されて、代わりの教員が担当科目を引き継ぎました。後期の授業がすでに始まっていたので、学生の大多数が困惑しました。しかし、教務課から明確な理由が告げられることはありませんでした。今思えばおかしな話なのですが。

しばらくして新聞に今回の事件が掲載されました。そこで初めて事の経緯を知りました。書かれていた記事の内容が真であれ、偽であれ、学生が迷惑を被りましたことは事実です。従来どおり、両教授の講義を受けたかったという声も上がっていました。

また、最近は教室のバッティングや教科書販売のミスなど大学運営も不手際が多くなっているように感じられます。この事件が引き金となってそういった錆が出てきていると考えるのは杞憂でしょうか？ それに『学生便覧』では履修できることになっている科目が『履修ガイド』に記されていないなかったり、一部の教職必修科目の履修登録が抽選制になっているのはおかしい、という声を聞きます。お二人のことは、こうしたこととも関係しているのでしょうか？

何はともあれ、お二人の帰還を望む声が決して小さいものではないことを、ここに書き示したいと思います。

## 意見書

名古屋芸大 中河・小西両教授を支援する会御中

平成30年8月27日

平成30年8月27日付をもって私個人の意見を下記の通り提出します。

### 記

私は名古屋芸術大学を2016年3月に卒業しました。私は卒業した時、この大学を卒業でき心から先生方と親に感謝をしていました。あの4年間で長年の夢だった専門的な美術の知識を身につけることができ、また素晴らしい先生方に会い、私はこの大学で学ぶことができる喜びを経験することができたからです。しかし卒業してわずか1年で名芸の様子が一変したようにみえます。在学中お世話になった教授2人が不当解雇を受け、さらに学外での卒業・修了展が取り消しになり、卒業生の身ではありますが、このままで大学はどこに向かっているのだろうかと不安に感じるところがあります。

名芸の良さは各コースの専門性がありつつも自由さがあることです。卒業・修了展では自分たちが制作したい作品の大きさを展示ができ、さらに先生達が毎回専門の授業の時間に各学生に声をかけることで先生と学生との距離が近く気軽に相談できるのは、他の大学にはない光景だと伺っております。

今の名芸は、卒業・修了展は授業の一環という名目で主役である学生達の意見を無視し、一方的に展示場所を制限しています。また多くの学生達に大変慕われ御担当の授業が楽しみであった先生方が次々と大学を離れざるを得なくなったり、不当に解雇されています。そうした状況下で、学生たちは各自の研究制作に集中することはできるのでしょうか？

学びの主役である学生・院生を顧みない大学に果たしてどのような未来が待ち受けているのでしょうか？

私の後輩たちが私の時のように専門性の高い授業を受け技術習得ができ、それを社会に発信していくチャンスを今の名芸で得ることができるのか疑わしいところがあります。私は今名古屋芸術大学が今後大学として存続するだけで芸術大学として存続しないのではないかと考えています。それは卒業生にとっては悲しみ以外の何物でもありません。母校が正常な大学運営を1日でも早く取り戻すことを祈ると同時に、非力ながらも中河・小西両教授がまた名芸で教鞭が取れるように支援していきます。

よしだ智恵